

SONRISA

そんりさ

vol. 181



コロンビア大統領選
依然続く紛争の現場から

大統領選挙投票日。紛争が続くカウカ県でペトロ氏は
第一回目で約 70%、決選投票で約 80%の票を得た。

- | | | |
|----|------------------------|------------|
| 02 | コロンビア大統領選 依然続く紛争の現場から | …柴田 大輔 |
| 04 | 強権政治の道を通るグアテマラ | …新川志保子 |
| 08 | 回想のラテンアメリカ オルーロへ | …唐澤 秀子 |
| 10 | ペルー音楽 ペルー的ジャズの現在 | …水口 良樹 |
| 12 | ラ米百景 汎米主義衰退を刻印した米州首脳会議 | ……伊高 浩昭 |
| 13 | メキシコ料理 タコのピコ・デ・ガヨソース味 | …ミゲル・アクーニャ |
| 14 | ムネちゃんの LA 情報拾い読み・斜め読み | ……小林 致広 |

2022年7月24日 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク (RECOM) 発行

コロンビア大統領選 依然続く紛争の現場から

柴田 大輔

6月19日、南米コロンビアで初の左派候補のグスタボ・ペトロが大統領選挙で勝利した。農村では、政府と反政府ゲリラが2016年に交わした和平合意後も続く紛争に、命や生活を脅かされる人々がいる。混乱が続く同国南西部のカウカ県を今年5月に訪ね、大統領選挙の背景にある現状を追った。

ゲリラと共存する村

「武器を持たない生き方がある。子供たちにそれをどう教えるか悩んでいます」

そう話すのは、コロンビア南西部のカウカ県の山村で小学校教諭を務めるコイクエ・メスティーソさんだ。コイクエさんが暮らすのは、アンデス中央山脈の1,500m付近にあるエスペランサ村。温暖な気候と夜との寒暖の差が適することから、コーヒー栽培が盛んな地域として知られている。一方で、近年は大麻や、麻薬の原料としてのコカの違法栽培が拡大し、それを資金源とする複数の非合法武装組織の活動地となってきた。現在、この地域一帯では「ハイメ・マルチネス機動部隊 (CMJM)」という麻薬組織が活動し、政府軍と激しく交戦している。CMJMは、2016年に政府との和平に合意し、翌年武装解除したコロンビア革命軍 (FARC) 部隊の一つ「ハコボ・アレナ機動部隊」が再武装した組織だ。エスペランサ村では、和平合意で政府が取り組むはずだった「麻薬問題」「武力紛争」が解決されずに残っている。

コイクエさんが教鞭を取る学校には、親族の中にゲリラ兵士がいたり、家族ぐるみで FARC に協力してきた家庭の子どもが少なくないという。そうした人々の中に、和平合意後に一度は武装解除に応じたが再び武装活動に復帰する人が増えている。若者への勧誘もある中で、どう教え子の安全を守ればいいのか教師同士でも話し合っている。しかし、武装組織を直接否定するのは教師にとっても危険が大きい。実際に、学校には政治的な話をしないよう、組織からの圧力があると話す。現状を説明する中でコイクエさんは「この村とゲリラの関係は、祖父母の代から始まっている」と教えてくれた。

エスペランサを含むカウカ県北部で反政府ゲリラが活動を始めたのは1960年代に遡る。背景には、16世紀から始まった植民者と地域住民との対立が



選挙戦最終日に支持者に訴えかけるグスタボ・ペトロ氏 (2022年5月 コロンビア・ボゴタ市)

ある。かつては金の採掘と、採掘のために築かれた町への食糧供給の土地として入植者の支配下に入り、その後、19世紀にはマラリヤの特効薬であるキニーネの産出地として外部からの侵入にさらされた。その中で土地と財産を奪われ、抵抗のための闘いが繰り返された。

こうした歴史の中で、1960年代、各地で勃興しつつあった反政府ゲリラと住民が結びついた。また1980年代には、エスペランサを含むカウカ県で、一部の住民が武器を取りゲリラ活動 (キンティン・ラメ武装運動) を開始した。その後、1991年に武装解除した。その一方、同地では地域住民の権利擁護活動が非武装の「先住民族運動」として、武装活動とは別の流れで展開され現在に至っている。

こうした歴史から、ゲリラ組織に協力したり、実際に武器を手に戦うことが、ある住民にとって「良いこと」として受け継がれている側面があるという。しかし、コイクエさんはこう続ける。「ゲリラはもう、良い存在ではないのです。彼らにはもう、政治的な動機はありません。ただ、昔を忘れることができない人が虚勢をはり、そこにお金になる麻薬取引があるということが、彼らが再び武器をとった理由だと思っています」。

現在、コロンビアには90を超える違法武装組織が存在するとされる。コロンビアの非政府組織 Indepaz によると、その中に、CMJM 同様、旧 FARC の流れを汲む組織は30あり、それぞれが3つの大きなまとまりに分かれている。構成員は5200人余りとされる。2017年に武装解除に応じた約13,000人の旧 FARC 構成員のうち、95%にあた

る 12,215 人は現在も市民生活を送っていることが確認されており、現在活動する戦闘員の多くが、和平合意後、新たに加入したメンバーであることを補足しておきたい。

和平合意の不履行と麻薬問題

問題の背景に、政府が責任を持つべき和平合意の履行状況がある。和平合意では政府が解決すべき 6 つの項目が決められた。社会格差是正のための「総合的農村開発」、違法作物から合法作物への補助金を伴う代替え計画を含む「麻薬問題」、「紛争終結」などだ。

しかし、コロンビアのシンクタンク「PARES」によると、政府による開発計画 (PDET)、代替え計画 (PNIS) とともに予算不足から実施が停止し、予算不足の背景に汚職の存在も指摘される。さらに、和平の前提となるはずの、武装解除に応じた旧 FARC 構成員の安全が保証されていない。2016 年以降、2022 年 7 月までに 333 人の元 FARC 構成員が、敵対してきた勢力などにより殺害されている。

武力紛争は終わっていない。エスペランサ村では、私が訪ねる前日、一日中、向かいの山を政府軍が空爆していたと聞いた。CMJMJM への攻撃だった。国内各地で政府軍や、反政府組織同士による交戦が繰り返され、国連の発表によると 2022 年最初の 4 ヶ月間にコロンビアでは約 8 万人が紛争による強制移住、または、移動が困難な状況に置かれている。

「これまで政府は、一度だって戦争を終わらせることができなかった。ここには常に、戦争がある」と、コイクエさんは憤る。それが今回の左派候補への期待につながっているとも話す。

また、ここにはもう一つ大きな問題がある。違法作物栽培だ。以前から栽培されていたコカを凌ぐように、ここ数年で、大麻 (マリワナ) の違法栽培が盛んになった。コロンビアで大麻栽培は条件付きで合法化され、医療用大麻の生産が活発化している。しかし、高額のリценズ料を払うことは、農村の個人農家には現実的ではなく、大麻産業の中心は企業によっている。現在エスペランサで違法に大麻を栽培する農家は、元締めとなる CMJMJM に税金を納めながら約 3 ヶ月ごとにおよそ 18 万円の収入を得ているという。最低賃金の約 2 倍の収入である。

こうした違法作物栽培が広がる現状をコイクエさんたちは苦々しく思っている。彼の母親はこう話す。「この村には彼ら (CMJMJM) に協力する住民も多い。しかし、それを望まない住民もいる。私たち



生育を促進するライトが夜通し大麻を照らし、家屋がまばらな山岳地帯が、夜には斜面がライトで埋められる。

(2022 年 5 月 コロンビア・カウカ県)

は彼らと手を切りたい。麻薬も戦争もない世界で生きていきたい。

今、この村では地域のあり方をめぐり住民同士が激しく対立しているという。CMJMJM に反対する住民が殺害される事件も起きている。それが武装組織のものによるのか、彼らを支持する住民によるのかは明らかではない。コイクエさんはこう話す。「この状況は、以前より悪い。誰が組織 (CMJMJM) とつながっているのかわからない。近所の人同士が信用できなくなった」

2018 年に政権についたイバン・ドゥケ大統領は、国内にある問題を解決できなかっただけでなく、より複雑化させ 4 年の任期を終えようとしている。こうした中で新大統領に就くグスタボ・ペトロ氏には、死の恐怖を抱え日々を暮らす人々の希望が寄せられている。同時に、副大統領に就任するフランシア・マルケス氏により大きな期待がかかる。フランシア氏は、エスペランサと同じカウカ県北部の農村出身者で、アフリカ系黒人の女性として初めてコロンビアの副大統領に就任する。彼女は紛争に直面する土地で、鉱山開発企業と闘った環境活動家だ。

ある人権活動家は新政権についてこう期待を込める。「私は、ペトロは本当の意味で過酷な状況にある農村の現状を理解しているとは思っていない。彼の役目は、これまでコロンビアで一度として開かれることのなかったドアを開けることだと思っています。彼が大統領でいる 4 年の間に、本当の意味で農村を理解する人物が育ち、次のリーダーとなることを願っています」

報道によると、左派政権を嫌い、国外へ資産を移す人や移住を探る人が増えている。また、大統領選が終わった半月の間に、コロンビア通貨は対米ドルで 15% も下落した。新大統領とその経済政策への不安があるとする。ペトロ氏の得票率は 50.4% で、約半数の有権者は彼を支持しなかった。今後どうコロンビアは変化するのか、国内外の関心が寄せられている。

強権政治の道を通るグアテマラ

新川 志保子

ペルーやチリ、コロンビアで革新政権が誕生し、南米では新たな「ピンクの波」(政治の左旋回)が起こっている。しかし、中米のグアテマラでは、強権政治がより一層ひどくなっている。

ここ数年で、判事や検察官などの司法関係者ら25人以上もが亡命を余儀なくされている。この中には元検事総長2名や元憲法裁判所長官も含まれる。来日したこともあり司法改革のために活動している人権活動家でミルナ・マック基金代表のヘレン・マックさんもその一人だ。そしてこの数はさらに増え続けている。

2015年—希望の年

今日のこの状況を考えるためには、2015年にまで遡る必要がある。2015年は、グアテマラの希望の年であった。当時の大統領だったオットー・ペレスらの大規模汚職疑惑がグアテマラ無処罰問題対策国際委員会 CICIG (注) によって暴かれ、それに対する市民の怒りが大きな抗議運動となり、ゼネストとなって広がった。その結果、大統領は辞職を余儀なくされ、逮捕、裁判と続いたのである。これは市民の闘いの大きな勝利であった。そして、その後内戦期の人権侵害、汚職、選挙資金不正など、それまでは不可能とされていた大規模犯罪の法的追求が進展してゆくことになる。

検察も強化され、CICIGと共に過去の犯罪、現在の巨悪を裁くために活動した。そして裁判官も政治に左右されず法に則った判決を下す。それに正義を求める市民の運動、これらが繋がって社会の中で一つの大きなうねりとなっていった。政治家や軍人、企業らがどんな犯罪を犯しても、罰せられない免責・不処罰の長い暗黒時代を経て、正義に近づいていく希望を持てた時期とも言えるだろう。

(注) グアテマラ無処罰問題対策国際委員会 Comisión Internacional contra la impunidad en Guatemala, CICIG

グアテマラ政府と国連の合意により設置された、国際的独立調査機関。目的は、影の権力にまでなっている犯罪組織ネットワーク(軍高官、官僚を含む)の捜査と、その法的処罰や解体を進めるために、検察・警察他国家機関に協力し、司法 機関強化を支援し、政策への勧告を行うことである。2007年9月に活動を開始し、巨悪の追求を行った。2年ごとにグアテマラ政府が国連に支援延長を要請して継続していたが、2019年ジミー・モラレス大統領が継続支援の要請をしない決定をして、同年9月に任期終了で撤退した。



オットー・ペレス大統領辞任を要求する市民の抗議

検察には不処罰対策特別検察 FECCI が設置され、CICIG とともに、毎週のように記者会見を開いて巨大汚職事件の構造を暴き、それがメディアで大きく報道され、実際に逮捕や有罪判決にも至る。

ジェンダー正義の進展も

この間、ジェンダー正義でも大きな進展があった。2016年2月には、内戦で軍による性暴力の被害女性15人が起こした裁判(セプルサルコ裁判)で加害者の軍人・軍属2名に対して有罪、国の責任も認めるという画期的な判決も下された。ジェ

ンダー犯罪を扱う 11 の特別法廷が作られたほか、警察と判事へのジェンダートレーニングも行われるようになったのである。

だが、このような状況を前に、組織犯罪グループ（その多くが軍関係者）や汚職政治家らが手をこまねいているわけではなく、あの手この手の裏工作を駆使してこの動きに対抗してゆく。辞職したオットー・ペレスの後で大統領に就任したのは、既存の腐敗した政治にうんざりした国民が選んだ元喜劇役者のジミー・モラレスだった。が、モラレスも実は背後に退役軍人会がついており、彼らの利益を代表していた。退役軍人会は大きな資金力と影響力を持ち、ジェノサイドはなかったと主張し内戦中の軍の犯罪を正当化する他、人権活動家への誹謗中傷などのネガティブ・キャンペーンを大々的に行っている団体だ。

2017年8月には、FECCI と CICIG が選挙資金不正事件を告発し、それに関わる有力政党の大物議員らや、モラレス大統領の免責特権はく奪を要請する。

その3日後、大統領はCICIG代表のイバン・ベラスケスを「好ましくない人物（ペルソナ・ノン・グラータ）」に指定し、国外追放にしようとした。しかし、憲法裁判所は、ベラスケスの国外追放を認めないという決定を下した。

汚職者同盟 Pacto de corruptos

この直後、2017年9月に議会は刑法改悪をスピード採決してしまう。その主な目的は、それまで懲役刑であったものを罰金の支払いで免除にすることや政党の代表が選挙資金不正の責任を問われない、などである。そうなると犯罪の約90%が刑務所行きを免れることになるというとんでもない改悪だ。

これにより、すでに収監されている汚職仲間を救い出し、将来自分に降りかかりうる危険を回避できるということだ。議員のほとんどは麻薬密輸がらみの金を選挙資金として受け取っていると言われている。これらの汚職議員らと政府が結託し、



イバン・ベラスケス CICIG 代表

密約を結んだ結果だった。しかしその2日後、多くの市民がこれに反対して大規模なデモを展開、この改悪は撤回を余儀なくされた。

2018年4月、FECCI と CICIG は、モラレス大統領が2015年の大統領選挙の時に企業家らから選挙資金を不正に受けていたことを暴く。これに対抗するために、モラレスは翌5月当時の検事総長テルマ・アルダーナの任期が終了したのを受けて自分の意に添う人物を任命する。新検事総長コンスエロ・ポーラスは、CICIG を遠ざけ始めるが、そのもとでも FECCI が果敢に任務を遂行し続ける。

2018年10月、大企業家たちの支援を受け、議会が不正選挙資金規制についての刑法を改悪してしまう。選挙に献金した企業家に恩赦を与え、「無報告選挙資金」という罪状を新設することで、多くの大企業家たちを追求から救うことになる。そして、今回はこの改悪を撤回させることはできなかった。

2018年10月、政府はCICIG 潰しを続行する。まず CICIG の外国人捜査官にビザ発給を拒否した。国連出席のためグアテマラ国外にいた代表のベラスケスに対してはグアテマラへの再入国を認めなかった。CICIG のマンデートは2年で、グアテマラ政府が国連に継続支援の要請をすることで活動が続いていたが、モラレス大統領はこの要請をしないことを決定した。2019年9月契約期間が終了し、ここにCICIG の活動に終止符が打たれた。

CICIG は、2007年創設からの12年間で、元大統領、現職大統領、大臣、軍人、大企業からの大規模汚職を暴いた。内戦後のグアテマラでCICIG が果たした役割は大きい。そしてCICIG という重し

がなくなると、2年足らずのうちにグアテマラの状況は大きく変わってしまうことになる。

汚職者同盟による反撃

国の主要機関は骨抜きにされ、いろいろなチェック機能が働かなくなった。こうして無処罰の土壌を元に戻しつつ、不正・汚職は続けられる。同時に、これまで汚職を追求してきた検察官、元CICIG捜査官、裁判官、弁護士、活動家、ジャーナリストなどへの報復が始まった。事実を証明できないでちあげの告発を連発し、逮捕してゆく。まともな判事は亡命か入れ替えられているので、正当な裁判も期待できない。こうして司法関係者の亡命は増えてゆき、司法システムそのものが崩壊していく。

2019年11月、議会はホワイトカラー犯罪（優越的地位の濫用、賄賂、資金浄化、詐欺、横領など）に減刑を適用できるようにするため、汚職で5年以上の懲役刑は執行猶予をつけられないという部分を削除するなど、刑法を改悪してしまう。

ジャマテイ大統領登場で報復に拍車

そして、2020年1月アレハンドロ・ジャマテイが大統領となる。与党として議会での議席数は少ないが、汚職者同盟で他党と結束し、次々に強権的な政治を行っている。新政権就任後、すぐに新型コロナウイルスが始まったこともあり、混乱に乗じていきなり戒厳令をしいたり、予算を変更したりと不透明な政策が相次いだ。検察長官は初めからジャマテイの言いなりで、汚職の捜査など期待のしようもない状況だった。

常態化する異常事態

最高裁や控訴裁判所の裁判官（それぞれ定員13人と135人）は任期5年で、選考委員会によって選ばれ、議会が任命することになっている。現在の裁判官の任期が切れた2019年以降現在まで議会はこれらの裁判官の任命を拒んだままという異常事態が続いている。新しい裁判官が任命されな



ジャマテイ大統領

いうちは以前の裁判官が継続することになっているが、最高裁13人のうち8人はCICIGにより告発されていた。

憲法裁判所の裁判官（5人）も、2021年4月が改選であったが、その1人グロリア・ポーラスは議会が任命を拒否した。彼女は以前鉱山開発が違法であるとして操業停止を言い渡したことがあるので、そのためだとされる。ポーラスはその後亡命を余儀なくされた。

鉱山問題—魔法の絨毯スキャンダル

グアテマラでは以前から鉱山開発によるいろいろな問題が起こってきた。開発の場所は先住民民族が暮らしてきた地域がほとんどで、住民の多くは開発に反対しているが、強制立ち退きや環境破壊、反対派の迫害などの人権侵害も多く起きてきた。そもそも開発には地域住民に十分な説明をし、是非を問う住民投票を行わなければならないことになっているが、歴代政府は企業を優遇し、開発を推進するため、反対派住民を排除した投票を強行したり、戒厳令をしいて力で抑えるなどしてきた。

最近ではイサバル県のニッケル鉱山開発に伴う問題が顕在化している。この鉱山開発はカナダ企業によって行われていたが、現在ではロシア資本にとって変わられている。操業を円滑に行うために、企業が巨額の賄賂を現ジャマテイ大統領に贈ったというものだ。FECIの調査により、プライベートジェットでやってきたロシア人たちが、多額の現金をくるんだ赤い絨毯を大統領に届けていたことが判明した。これは「魔法の絨毯」スキャンダルと呼ばれている。

この開発については、憲法裁判所が地域の住民

投票をおこなうまでは操業を停止するよう命令が出ていたが、企業はこれを無視して操業を継続。2021年10月地域住民はこれに抗議し、燃料や資材を運び込めないように道路を封鎖した。警官と衝突して反対派が多数逮捕された。ジャマテイ大統領は戒厳令をしき、エネルギー省と企業が反対派住民を排除して住民投票を強行し、強引に開発賛成を引き出したという経緯がある。

だが、2021年7月検察が魔法の絨毯事件に着手した矢先、検事総長は FECCI チーフ を解雇する。他にも多くの人事異動で捜査や裁判を頓挫させ、汚職の追及は骨抜きにされた。他にも検事総長が政府高官の絡む多くのケースの追及を阻止したとの内部告発もあった。2022年3月にはロシア鉱山会社の内部資料がリークされ、環境汚染の隠蔽、汚職など数々の不正が暴露された。しかし、すでに司法の追求の道は閉ざされてしまっている。

国内で解決できない場合は、米州機構に申し立てることができる。地域住民は今年6月に、開発によって住む土地が奪われること、正当な住民投票が行われなかったこと、反対住民の弾圧、開発による環境汚染の告発・抗議の行動が犯罪とみなされることなどについて、米州人権委員会に提訴している。

今年2月には、ジャマテイ大統領が2019年選挙で不正な巨額資金を受け取った疑惑が明るみに出た。が、すぐに事件捜査に関わる検察官数人が逮捕される。この事件を担当した裁判官もさまざまな圧力や脅迫を受け、亡命を余儀なくされた。

他にも元 CICIG 関係者や、検察、司法官などの告発、逮捕が加速され、辞職や亡命が相次ぐ。このように、政権の意向に従う者以外はどんどんパージされ、不正や汚職を追求する道が閉ざされている。汚職の疑惑はメディアでは報道されても、それが法的な追及には繋がらないのだ。

NGO つぶしも

2021年6月には、前年に議会を通過した新 NGO 法が施行された。これによって、政府が NGO



ヘレン・マックさん

の資金を監視でき、秩序を乱すと判断すれば法人格を剥奪できるようになった。この法律は、政府の恣意的な判断で、邪魔な組織やリーダーを犯罪者に仕立て上げることができる、と前の憲法裁判所がストップをかけていたが、現在の憲法裁判所がこれを認めた。国連や米州機構は、新 NGO 法が国際人権規約に反し、人権活動の犯罪扱いになると、懸念を表明した。米州人権委員会も司法の独立性が危ぶまれると警鐘を鳴らしている。

効かない国際社会の圧力

バイデン政権は、再三グアテマラ政府に汚職追及を要求している。腐敗している、あるいは反民主的な行動で法治制度を脅かす公職者をリストアップし (Engel list)、米国のビザを出さない、米国内でのビジネスを制限するなどの制裁措置をとっている。リストには前大統領や議員、現検察長官ら20名以上が入っている。が、残念ながら大きな圧力にはなりえていない。

現状にあらがう努力

このように、現在のグアテマラの状況はかなり悲観的だ。だが、これに対して抵抗の動き、努力も絶え間なく続けられている。国内では、抗議活動も行われているし、メディアもまだまだがんばっている。亡命者のほとんどが住んでいる米国では、ヘレン・マックさんらが中心になって、司法関係者を組織し、国連や米州機構、米国政府への働きかけを強め、グアテマラ政府に圧力をかけようとする努力も続けられているのである。

サンフアンへの旅からラパスへ戻り、そこからオルーロへ向かったのは、11月くらいだったでしょうか。有名なオルーロのカーニバルは、私たちのボリビア滞在期間と重なることがなく残念ではあったのですが、それでもラパスから地方へ出た時には小さなお祭りにたまたまぶつかることもありました。手をつないで街路を踊り回っているたくさんの人びとや、町中をあの有名な色どり豊かな植民地時代の衣装をまとしてパレードするところに出くわし、「ケチュアの人びとは血の中に歌と踊りをもっている」と評されるアンデスの人びとの姿に接することが何度もありました。農作業の休憩時か、畑のそばで5, 6人が腰をおろして食べているところで、ちいさな子どもが母親の手につかまってステップを踏んでいた愛らしい姿が目裏に残っています。

オルーロへ着いて宿を決めた時、宿の主人にすぐに警察に届けをしてくれと言われたのですが、とても疲れていて休んでしまったのです。翌朝、主人がとても心配そうに、気兼ねしながら、警察にぜひ届けてくださいと、ふたたび言われ、あまり気にせず、警察に行ったら、なぜ届け出をしなかった、こちらから探しに行こうとしていたと威嚇的に言われ、その時はなぜそんなに威張るのだ、権力を振りかざして、と内心思い、その気持ちのままに不機嫌丸出しの顔で、パスポートを見せ、目的は観光、宿はどこそこと届け出をしてきました。宿の主人の心配していた顔、帰った姿を見てほっとした様子が思い出されます。

届け出をすませた後、かつての「錫鉱山王」といわれたシモン・パティーニョの邸宅跡を見学し、現代の私たちの目から見れば、意外なほど質素な部屋の様子が記憶に残っているのですが、そのあとシグロベインテ鉱山の鉱夫たちの住居を訪れた時、質素などと思ったのはとんでもないことだったと、いまになると思うのです。

鉱山労働者居住区

シグロベインテ鉱山の居住区は、すべてが灰色だったとはっきり記憶に残っています。

雨がぱらぱら降る日だったので空もどんよりと灰色、山も灰色の土、その上に立つ住居も飾りなどいっさいなく、横長のそっけない3, 4戸分が連なった箱のような建物、それぞれに窓がひとつ、ドアがひとつの、家というより小屋ともいべきものも灰色。水が溝をながれていき、雑草の1本も見あたらない。人気のないあまりにも荒涼とした風景でした。言葉もなく、誰に会うこともなく、傾斜地に並ぶ何列かの住居をみて、帰りました。

中南米の旅に出る前に、かの地について得られた知識の範囲は、とても限られたものでした。ボリビアばかりでなく、中南米全体についての書籍も本当に少なく、またその多くはスペインに「発見された」新大陸、という観点から、スペイン人の側からみた征服の過程であったり、あるいは考古学的内容であったり、日本からの移民についてであったりするものばかりでした。とりわけ先住民については、寡黙でじっと耐え忍ぶ人びとという印象を強く与える内容のものばかりでした。

そんな限られた情報のなかでも、ボリビアは鉱山労働者の活動が非常に活発で、左派政権を生むほどの実績もあり、またチェ・ゲバラが革命の根拠地を作るためにボリビアで活動し、そこでとらえられ、殺されたという事実を照らしてみると、中南米の他の地域と比べて圧倒的に活動的な印象を持っていました。もちろん、その印象は旅をするにつれ、ごくわずかな情報にしか接することができなかったために生じた偏ったものであったことは、だんだん分かっていきました。そんなこともあって、シグロベインテの居住区には行ってみたいと思っていたのです。その時、なにを期待していたのでしょうか。たしかなことは思い出せないのですが、少なくとももう少し、出入りする人影があり、雑草だって少くくらい生えていたり……。これほど荒涼とした風景に出会うとは思っていませんでした。

『人民の勇気』とドミティーラ

ウカマウ映画グループの主宰者であるホルヘ・サンヒネスとベアトリス・パラシオスとはす

でエクアドルで短い時間だったけど会って
いました。その時彼らからこのシグロベイン
テの鉱山労働者の戦いや、その家族たち、主婦
たちが立ち上げた鉱山主婦委員会の活動を基
にしたセミドキュメント映画『人民の勇気』の
ことは聞いていたのですが、まだ実際に見る
機会はなかったのです。

アルゼンチンからチリまで行って、また北
上してきてふたたびコロンビアで会ったとき、
『人民の勇気』をはじめとして、彼らの作品を
見せてもらいました。『人民の勇気』には主婦
委員会のリーダーであるドミティーラが活動
を禁じられ、トラックに乗せられ追放されて
行く姿が写っています。軍用トラック、銃を構
えて威嚇しながら荒々しく振る舞う兵士たち、
なにかあれば、すぐさま令状などというもの
もなく、軍隊が一軒一軒ドアを破ってでも
家宅捜索にやってくる現実。観光客であって
も、軍警察に届け出を要求し、来なければ探し
にやってくる、というのは脅しでもなんでも
なく、当局にとっては当たり前の日々の任務
なのだということがいまさらのように思われ
ました。

さらにドミティーラの聞き書き『私にも話さ
せて』は帰国してから読んだのですが、あの時
目にした鉱山居住区で感じたことが具体的な
現実感をもって思い出されました。あたり
に何も無い、と、感じたのも道理です。鉱山労働
のためだけに作られた住居区であって、そこ
に住む人間の心地よさなどに配慮したもの
ではない。ドミティーラの語る言葉を借りれば、
「幅4メートル、奥行き5～6メートルの部
屋。・・・ただ四方に壁があるというだけ・・・水
道もない、便所もない・・・居住区全員で共有す
るシャワーが10から12、トイレも共同でそ
れも居住区全員で使用する・・・」。さらに近
辺には食料をはじめ日用品を売るような店も
ない。そんな家でも鉱山公社に働いて何年か
経たないと貸してもらえない。時には複数
の家族が同居していることもまれではない。苦
労してようやく入居できたとしても、鉱夫
が病気になって失職すればなんのあてもなく、
すぐに追い出される。さらに鉱山公社が食料、
日常必需品を十分に供給しないために、主
婦ばかりではなく子どもたちまでどれだけ苦
労しなければならないか、日々の生活が克明に

'si me
permiten
hablar...'
TESTIMONIO DE
DOMITILA
UNA MUJER DE LAS
MINAS DE BOLIVIA
moema viezzer



ドミティーラの原本

語られています。このドミティーラの語
りを読み、また映画
を見て、あらためて
鉱山労働者とその家
族の現実が強烈な印
象を持って迫ってき
ます。

ドミティーラの語
りはどの言葉も力強
いのですが、深く印
象に残っているの
は、こんなことです。

「インディオの農民がじゃがいもとか農作
物を売りにやってくる、そのときわたしらは
農民に家族と同じ食べ物も出さんし、同じ食
器を使わせてもやらん、農村から出てきた子
を家事労働に使うとき、ほとんどなんにも支
払わん、こんなふうに農民を扱っていたら、連
帯などできるはずもない、自分たちが企業に
搾取されていると言いながら、農民を搾取し
ている」と、省みる言葉。また主婦委員会を立
ち上げ、同じ労働者として連れ合いたちと共
闘するとき、資本家たちと戦う以前にマチス
モと戦わなければ家から出て行かれない現実
に悩まされ、女性が家事にかかりっきりでま
わりの現実には無知なままでは、未来を背負
うこどもたちを育て上げるという根源的な役
割を果たすことができないという確信に満ちた
言葉。

激しい戦いと、時には食べ物を確保するこ
とさえ困難な日々の中で自分たちの置かれた
状況に対する深い考察、自己を省みる懐の深
さに、半世紀が過ぎた今でも胸に迫るものが
あります。

帰国してからウカマウ映画の自主上映に関
わってきたこともあるのですが、それ以上に
ボリビアというくには、懐かしさ、いつか
また帰りたい、そんな気持ちが消えません。

その懐かしいボリビアについては、帰国後、
下記の2冊の本を翻訳出版しました。

- ・ドミティーラ/M.ヴィーゼール
『私にも話させて』現代企画室 1984年
- ・ベアトリス・パラシオス
『悪なき大地への途上にて』編集室イン
ディアス 2008年

ペルー・ジャズのあゆみ(4) ペルー的ジャズの現在

ペルーのジャズのお話も4回目となった。ホセ・イグナシオ・ロペス・ラミレス・ガストンのペルー・ジャズ史をたたき台にお話ししてきた今シリーズもいよいよ佳境である。1990年代にいよいよペルー的ジャズが本格的にテイクオフし、その後どう展開していったかについて、論文では言及されていない2000年代以降の流れも含めて、ざっくり概観してペルー・ジャズ編の最終回としたい。

1990年代に入ると、ペルーでも北米ペルー文化協会主催のリマ・ジャズ・フェスティバルなどのジャズ・フェスティバルが始まり、ペルーで展開している多様なジャズが徐々に認知されるようになってきた。アメリカ由来のいわゆる「ジャズ」からカリブにルーツを持つラテン・ジャズ、そしてペルー発の独自の新しいジャズの試み。こうしたさまざまなジャズの実践による裾野が広がり、認知されるようになってくると、新しく面白い試みが加速度的に起こってくる。こうして1990年代以降、ペルーのジャズは新たな展開を迎えていったと行ってもよいだろう。

また、もともとジャズ畑ではない様々な音楽家たちがジャズとのフュージョンを始めたことも大きい。その中でもっとも大きな注目を浴びたのはラテン・グラミーをペルーで初めて受賞したスサナ・バカだろう。チャブーカ・グランダの薫陶を受け、アフロペルー音楽の在り方を独自に模索していた彼女は、アフロペルビアン・ジャズのコアなアプローチとはまた異なる、より一般に「わかりやすい」ジャズテイストのアフロペルー音楽を提供することで、難解でコアなファン向けであったリッチー・セジョンらのアフロペルビアン・ジャズと伝統的なアフロペルー音楽の間の空白を架橋していった。こうした実践は、ピラール・デ・ラ・オスやコリーナ・バルトラ、マルタ・ガルドスなど多くの若手歌手たちによっても担われた。また2019年にはラテンアメリカの音楽に注目しているアメリカのジャズ・ミュージシャンによるユニット、ジャスト・プレイがアフロペルー音楽とのコラボを行い、アフ



ジャスト・プレイのアルバム『アフロペルー音楽の女戦士たち』

ロペルー音楽の女性歌手たちと「アフロペルー音楽の女戦士たち」というアルバムを発表している。インディヘニスモ作家シロ・アレグリアの孫であるトランペット奏者ガブリエル・アレグリアが、アメリカの大学院でジャズ研究の博士号を取った後、1999年に国際ペルージャズ協会(AIJP)を設立した。アレグリアはニューヨーク大学の教員をしながら、ペルー・ジャズをアカデミズムの中に位置づける作業を行い、またAIJPより「オルケスタ・フベニル・デ・ムシカ・ヌエバ」のライブアルバムをリリースするなどの活動を行っている。また、2005年にはガブリエル・アレグリア・アフロペルビアン・セクステットをNYで結成、意欲的に作品を発表し続けており、NYが第二のアフロペルビアン・ジャズのセンターと語られる要因となっている。

また、米国西海岸では、ラテン・ジャズなどのマルチパーカッション奏者として知られるラウル・ラミレスも、アフロペルビアン・ジャズ実践者として「コン・サパト・イ・トド」をリリースしている。



ガブリエル・アレグリアのアルバム『ヌエボ・ムンド』

一方、カホン奏者第一人者として評価の高いファン・メドラーノ・コティートがペペ・セスペデスとセサル・ビバンコとトリオで活動しているクリオジャズ(クリオージョとジャズをうまく掛詞にした素晴らしいバンド名だと個人的には思っている)は、在アメリカのアフロペルビアン・ジャズの聞きやすさと、リッチー・セジョンらディープなインプロビゼーションほとばしるスタイルのちょうど中間を絶妙に位置取ったトリオとして、非常にすばらしかった。しかし、ライブ活動が中心で2016年前後のわずかな YouTube 以外彼らの活動になかなか触れることができないのが残念なところだ。

また、リッチー・セジョン以降のアフロペルビアン・ジャズ・ギタリストとして特にあげておきたい者としては、まずユリ・フリアスがいる。リマのアフロペルー音楽シーンでギターを学んだ後に NY でジャズを学び、NY を拠点にガブリエル・アレグリア・アフロペルビアン・セクステットでギターを務めながら、自身も 2008 年に「アフロペルー」、2016 年には「ギター・サピエンス」をリリースしている。特に「ギター・サピエンス」の 2 枚組のうち 1 枚はオーケストラとの共演という意欲作/異色作になっている。

加えてフラメンコ・ギター奏者としても知られたムシカ・クリオージャのギタリスト、エルネスト・エルモサもジャズ奏者としての活動を積極的に展開している音楽家であり、コティートやホルヘ・パルドらとつくった「太陽の門」が非常に高い評価を受けている。

ピアノ奏者として忘れてはいけないのが、1990 年代よりさまざまなペルビアン・ジャズの在り方を模索しているホセ・ルイス・マドゥエニョだろう。ジャン・ピエール・マグネットとともにアンデス・ジャズ・アルバム「ワイルーロ」を 1996 年にリリース、そしてさらに同年リッチー・セジョンのアフロペルビアン・ジャズに影響を受け、彼のプロデュースでソングサウルス・レーベルから「チルカーノ」をリリースしている。その後もピアノだけでなくギターやフルート、ボーカルまでも駆使しながら活動しており、2016 年にアンドレア・デ・マルティスとリリースした「コンベルシオネス」はポップなテイスト



ホセ・ルイス・マドゥエニョのアルバム『チルカーノ』

もあいまって話題となった。

さて、アンデス系のジャズも最後に少し触れておこう。今、一番対外的に紹介されているアンデス系ジャズ奏者はルチョ・ケケサナだろう。ケーナとサンポーニャを使った「ペルー的ビジュアル」とポップでわかりやすいメロディラインは幅広いファンを獲得することに成功している。また逆に、コアな路線で独自の道を模索しているのがフレディ・グスマンだ。NY でジャズを学ぶことでルーツを意識するようになった彼は、いわゆるステレオタイプなアンデス音楽イメージではなく、コアな現地の農村音楽をジャズとして演奏することにこだわり、ユニット・ワイジャズで独自のスタイルでワイノのジャズ・スタイルを生み出すことに成功している。しかし、その後奥深いアンデス世界に魅せられた彼は、アヤクーチョやクスコを中心に長期のフィールドワークを行いながら、より人々に愛される音楽であることを求め、現在はジャズから離脱しつつある。農村音楽をポップでダンサブルな音楽へと彼自身の感覚を込めてどうバージョンアップしていけるかを模索している若い才能である。

さて、非常に駆け足で今回も沢山のジャズ・ミュージシャンを紹介してきた。4 回に分けて見てきて改めてペルー音楽の豊かさを私も実感した。しかし、実際のところペルーのジャズの裾野はもっともっと遠くまで広がっており、ここで紹介したのはその中のごく一部である。

なんとなく面白そうかな?と感じたミュージシャンがいれば YouTube や Spotify などで聴いてみるもよし、貴重な CD を探しだしてゲットしてみるもよし。ぜひ、みなさんもまだまだマイナーながら奥深いペルビアン・ジャズの世界を楽しんで欲しいと思う。

汎米主義衰退を刻印した米州首脳会議

米州 35 カ国首脳 (大統領か首相) が一堂に会するのを理想とする米州首脳会議の第 9 回会議が 2022 年 6 月 8~10 日、ロサンゼルス (LA) で開かれた。主催者のジョー・バイデン米大統領が 3 月、「非民主的なキューバ、ニカラグア、ベネズエラは招かない」と表明するや、カリブ共同体 (CARICOM) が異議を唱えて荒れ模様となり、AMLO 墨大統領が「3 国首脳が参加しないなら私は出席しない」と言明。その結果、AMLO だけでなく、同調したボリビア、ホンジュラス、セントヴィンセント & グラナディーン (SVG)、グレナダ、セントクリストファー & ネヴィス、バイデン政権と不仲のグアテマラ、エル・サルバドル、大統領が新型コロナに感染したウルグアイ、および招かれざる 3 国の計 12 カ国首脳が参加しなかった。うち代理を派遣したのは、同 3 国と SVG を除く 8 カ国だった。出席したのは首脳 23 人、外相ら代理 8 人の計 31 人。首脳陣の 3 分の 1 が姿を見せない寂しい会議となった。

米政府は、2019 年初めからベネズエラ首班を元国会議長フアン・グアイドーと認めている。だが、トランプ前米政権がグアイドーを傀儡として擁立した同年末、国連総会はベネズエラ代表権投票を実施、3 年連続でニコラス・マドゥーロ大統領現政権を正統として承認してきた。バイデンはグアイドーを会議に招く方針だったが、3 国非招待問題に加え、今や国会議員でもなく首班としての根拠に欠くグアイドーを招けば、ラ米・カリブ諸国首脳の欠席がさらに増えると懸念し断念した。しかしバイデンは LA に向かう機内から、カラカスにいたグアイドーと 17 分間通話した。

米務省は、2001 年ケベック市での第 3 回首脳会議で採択された「米州民主憲章」が謳うように民主国しか参加できないと、同憲章を非招待の理由にした。バイデンも LA 会議開会演説で「民主の信念の下で結束しよう」と呼び掛けた。

振り返れば、オバーマ米政権期の 15 年、パナマ市での第 7 回会議にキューバが初めて公式に招かれ、ラウル・カストロ国家評議会議長 (当時) が出席した。しかし次の第 8 回リマ会議の主催国ペルーはベネズエラを招かなかった。今会議では、排除対象が 3 カ国に増えたのだ。バイデン政権の 3 カ国除外やグアイドーへの気配りは、今年 11 月の米「中間選挙」でのラテン系票の行方が気懸かりなことと無関係でない。米務省には、2 月にウクライナ侵略戦争を始めたプーチン露政権に対する国連などでの糾弾や制裁の決議で、ロシアと同盟 (的) 関係にある 3 国が曖昧な態度や親露姿勢を示したことへの苛立ちがあった。非招待 3 国のうち、国際世論

を変えるほどの威力を持つ「シャープパワー」として外交宣伝技術を駆使するキューバは、域内 150 団体が参加して首脳会議と同時に LA で開かれた「人民サミット」の親政勢力を足場に自国支持の空気を醸し出すのにかなり成功した。ニカラグアのダニエル・オルテガ大統領は、同国で 7 月 1 日~12 月 31 日に露軍との合同演習を実施、キューバとベネズエラの国軍も参加すると発表した。またマドゥーロ大統領はトルコ、アルジェリア、イランを歴訪、イランとは石油、防衛、食糧生産など広範な項目で 20 年間協力し合う協定を結んだ。3 国の言動は国際世論には、しっぺ返しのように映った。

3 国の立場を代表したのは、ラ米・カリブ諸国共同体 (CELAC) の輪番議長国アルゼンチンのアルベルト・フェルナンデス大統領だった。3 国非招待をバイデンに抗議、米州首脳会議の基にある米州諸国機構 (OEA) のルイス・アルマグロ事務局長が 2019 年 11 月のボリビア政変を支援したとして辞任を求め、さらに 22 年 12 月亜国で開かれる CELAC 首脳会議にバイデンを招いた。この招待は、CELAC を基盤として OEA に替わる米州統合機関を創設したい CELAC 左翼・進歩主義諸国の意向を踏まえている。

今会議は「移民と保護に関する LA 宣言」、「民主施政」、「クリーン再生可能エネルギー化」、「デジタル化地域」、「持続可能な緑の未来」、「米州保健・回復力」の 5 計画を採択し閉会した。移民問題は米国の最重要問題だが、対米移民が多いメキシコ、グアテマラ、ホンジュラス、エル・サルバドル、キューバ、ベネズエラ的首脳が出席しなかったのは痛烈な皮肉だった。

一方、アントニー・ブリケン米務長官は会期中、① 伯墨亜智加 5 カ国と協力しての域内食糧安保計画 (3 億 3000 万ドル投資) ② 域内 4 銀行と協力しての気候変動対策 (2030 年までに 500 億ドル投入) ③ 経済協力機関として「米大陸経済的繁栄のための同盟」創設構想 ④ 保健人材育成 (2030 年までに 50 万人) ⑤ 移民対策 (21 年から 32 億ドル出資) を発表した。またカマラ・ハリス米副大統領は同じく、① 中米進出米企業 10 社による雇用創出投資 (19 億ドル) ② 女性基礎労働訓練・農産業従事者育成 (140 万ドル) ③ 中米北部 3 国青年に職業訓練を施す「中米役務部隊」(CASC) 創設 (5,000 万ドル) の 3 計画実施を明らかにした。

2023 年は、ジェームス・モンロー米大統領が打ち出した「モンロー教義宣言」の 200 周年。だが「汎米主義」を掲げる米国による CELAC 地域 (米加両国を除く域内南方) での覇権再確立の夢は、LAC 政治思潮の多様化や中国の著しい進出で遠のくばかりだ。

タコのピコ・デ・ガヨ (雄鶏のくちばし) ソース味

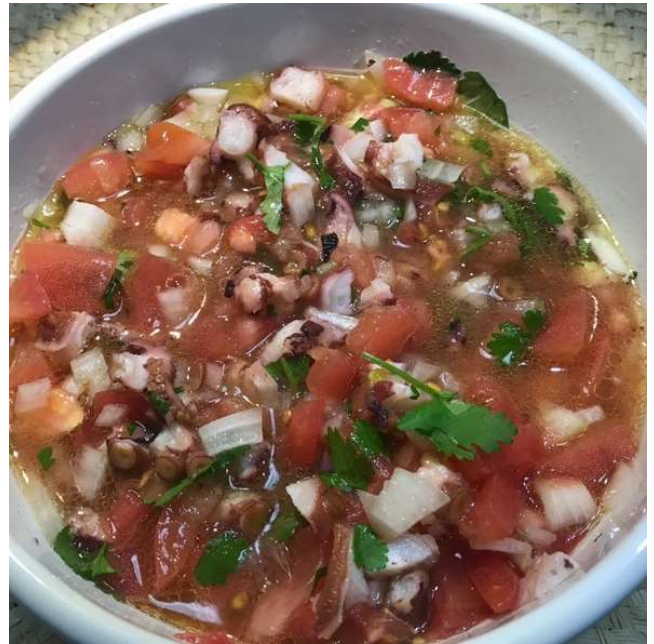
Pulpo en Salsa Pico de Gallo

メキシコは、太平洋、カリフォルニア湾、大西洋とつながるメキシコ湾とカリブ海に囲まれ、これらの海には多くの種類のタコが生息しています。

ユカタン半島もその例外ではありません。さまざまな調理法があり、マヤの人々も昔からいろいろな料理をつくってきました。

今回は、ピコ・デ・ガヨ (雄鶏のくちばし) というソースでたこを食べるレシピです。

「雄鶏のくちばし」という名前の由来については、赤いトウガラシがくちばしに似ているからとか、トウガラシの辛さが雄鶏につつかれたように感じるからとか、諸説あります。別名メキシカンソースとも呼ばれています。



この料理は、タコスでもフランスパンでも、サンドイッチでも、多くの食材と合わせることができます。

▽材料 (4人分)

- ・たこ 300グラム
- ・トマト 中4個
- ・玉ねぎ みじん切り 大さじ4
- ・コリアンダー (パクチー) 大さじ2
- ・クミンパウダー 小さじ1/8
- ・白こしょう 小さじ1/8
- ・塩
- ・レモン 2個

▽作り方

- 1) たこをゆでて、小さめのさいの目に切る。
- 2) トマトもさいの目に。玉ねぎをみじん切り。
- 3) 材料をボウルに入れて、レモン汁をしぼる (種は取りのぞく)。
- 4) みじん切りにしたコリアンダーを加える。
- 5) クミンパウダーとこしょうと塩で味を調える。
- 6) タコスやトトポス (トルティーヤチップス)、フランスパン、ソーダクラッカーといっしょに食べてもおいしいですよ。

ムネチャンのLA情報拾い読み・斜め読み(2022年7月)

小林 致広

(1) 中国の投資と環境権・先住民権の侵害

2022年2月、『LA諸国の人権と中国の企業活動』(<https://bit.ly/3uAVMUv>)と題する報告書が、中国の金融投資・人権・環境に関するコレクティブ(CICDHA)によって公表された。2017・2018年に実施の調査に基づく報告書では、エクアドル9例、ペルー4例、ボリビア3例、アルゼンチン、コロンビア、メキシコ、ベネズエラ各2例、ブラジル、チリ各1例、合計26事例が分析されている。半数の13事例が、アマゾン地域に関するものとなっている。

事業別内訳は、鉱山開発12例、水力発電6例、石油3例、太陽光発電、鉄道建設、港湾建設、木材輸出、遠洋漁業が各1例となっている。

26例中23例において、脆弱な環境に対する深刻な侵害が確認されている。そのうち11例は鉱山開発にともなう水質の汚染である。先住民の人権侵害は、18例で確認されている。そのうちの12例では、ILO169号条約や国連先住民権利宣言で定められた先住民居住域の開発計画実施において必要とされる地域住民に対する事前協議が実施されていない。

報告書は、2018年の「普遍的定期審査」の6項目の改善勧告の不履行を指摘し、中国政府に2022年5月中の報告書の提出を要請した。

またLA諸国で採択された環境問題に関する情報・公的参加・司法アクセスに関する地域合意(エスカス合意)を中国企業に周知することを求めている。



出典：<https://www.servindi.org/actualidad-noticias/11/07/2022/inversiones-chinas-vulneran-derechos-al-ambiente-y-de-indigenas>

(2) マヤ鉄道建設は違法状態

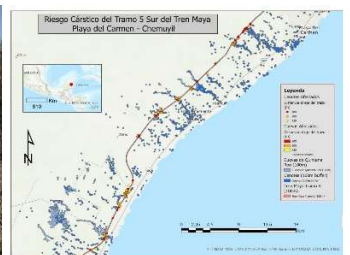
5月18日、ユカタン州第一裁判所は、プラヤ・デル・カルメンの潜水洞穴学のグループによるマヤ鉄道第5工区南部(プラヤ・デル・カルメン=トゥルム間)の建設差止請求を採択し、無期限停止命令を出した。第5工区の工事は、環境影響評価書が未提出の状態、2021年末から始まり、予定路線上の原生林が約30mの幅で伐採された。2022年1月、国道上への高架案が撤回され、内陸部に建設する案が発表された。背景には、工事による観光客減少を危惧するホテル業者の意向と国道陥没箇所への橋梁建設の経費増大という問題があった。2月から森林伐採が行われた新路線上にも複数の陥没や洞窟が発見された。

これらの陥没箇所はカリブ海まで続く地下水路網にあるセノーテだった。潜水洞穴学のグループは工区内に12の地下水路網の存在を指摘して、工事差止請求を提出した。3月22日の「世界水の日」から、「Selvame del tren」というキャンペーンが展開され(<https://youtu.be/P809bJASZrA>)、著名歌手(ナタリア・ラフォルカデ、カフェ・タクバのルベン・アルバラン)などのビデオ・クリップ(<https://youtu.be/QUZf6qKjEHE>)も流された。

路線上に多くあるマヤ遺跡の保全作業も2割しか進んでいない。工事差止請求に関する最終決定(7月末)に必要な公聴会も度々延期され、他工区でも複数の工事差止命令が出されている。しかし、ロペス・オブラドール大統領は、反対キャンペーンは似非環境活動家、保守派によるものと無視し、マヤ鉄道は「国の治安」に関する事業と宣言し、2023年度中の工事完了を公言している。



予定路線上の巨大洞窟



路線にある地下水路網

出典：<https://avispa.org/construccion-del-tren-maya-se-mantiene-en-la-ilegalidad/>

(3) いつも以上に動員も、またも勝利せず

燃料や食料品の物価上昇を契機に始まったエクアドルの全国ストは、政府と先住民組織などとの10項目合意（燃料費15セント値下げ、石油・鉱山開発中断など）で、6月末に終わった。スト支持者のなかには、40セントの減額要求の半分も得られず、逮捕者や負傷者だけでな死者もあり、多くが望んだラッソの退陣は実現せず、ほぼ敗北という思いもある。

エクアドルの先住民運動はアメリカ大陸でもっともよく組織されているとされる。1990年以降、CONAIEは歴代政権の新自由主義的政策の押し付けに対する対抗手段となってきたが、根強く残る人種差別主義を打破できていない。2008年憲法でエクアドルは多民族・多文化国家とされたが、具体的で明確な公共政策は実施されてこなかった。政府に抵抗・抗議行動を行う先住民は、1983年の「国内防衛軍事計画」に定められた通りにエクアドル内部の敵と見なされ続けている。

2015年8月、ラファエル・コレアは全国スト参加の先住民を「負け犬のインディオ」と決めつけ、容赦ない弾圧を展開した。2019年10月、レニン・モレノは、首都に集結した女性や子どもにも催涙弾を浴びせた。エクアドル住民の多くが抱いた先住民の抗議運動に対する「恐怖」は、パチャクティック（CONAIEの政党）への投票忌避を促したとされる。

今回、ラッソ大統領はCONAIE総裁を先住民の正式代表と認めなかった。社会キリスト教党の国会議長は、パチャクティック議員を「アヤワスカでラリる無知のインディオ野郎」と罵り、「インディオは少数者、リーダーはテロリスト。虱だらけで臭い。風呂に入れ」と放言する政治家も放置された。

CONAIEは、お恵みを求める経済闘争やブルジョア国家の支配権を追求する政治闘争



負傷者を救護する救護班

ではなく、自律的な共同体システムを再構築していく「ブエン・ビビル=善き生活」の道を模索すべきであろう。

出典：<https://www.opendemocracy.net/es/paro-indigena-2022-ecuador-jugamos-perdimos/>

(4) チリ新憲法案の主要改正点

一年前に始まったチリの新憲法制定作業は、2022年7月4日の草案提出で、9月4日の国民投票を待つだけとなった。11章388条から成る新憲法の草案は、チリを多民族・多文化の社会的・民主的法治国家と定義し、現行憲法にない先住民の認知、権利、保護についての記載が盛り込まれた。また、ジェンダー平等を推進するための法整備が謳われ、国家の義務として、教育、住宅、健康、労働の保障を定義するなど、現政権の政策方針とも共通項がみられる。妊娠、中絶の権利、出産、母性保護に関する条件の整備が謳われている。民間保険制度と並行して国民皆保険制度の確立も謳われている。

天然資源の一つ水資源が公共財であることは明記されたが、取り沙汰されていた鉱産資源などの国有化は明記されず、反自由貿易協定の方針も盛り込まれなかった。人権弾圧に関連して、国内治安維持装置だったカラビネロスなどの位置づけも明確にされてはいない。また、中央集権的制度を見直し、上院（Senado）に代わる地方院（Cámara de las Regiones）の新設が謳われている。大統領選立候補年齢を35歳から30歳へ引き下げ、大統領再選（1期のみ、連続可）についても規定されている。

2020年の国民投票では8割が「ピノチエト憲法」に替わる憲法の必要性を支持していた。7月初めの調査では、草案承認と否認は45%対55%で、承認が少数なら旧憲法が継続することになる。下院155議席中68議席を占めるチリ・ポデモス・マスやキリスト教社会連合は、草案は「ピノチエト後の民主主義」の否定であるとして、否認キャンペーンを展開している。

Tema	Constitución Actual	Nueva Constitución
Derecho a la Vivienda	X	✓
Reconoce las labores de cuidado	X	✓
Derecho humano al agua y saneamiento	X	✓
Estrategia nacional climática	✓	X
Mecanismos de democracia directa Regional	X	✓
Protección regional o territorial	X	✓
Audiencias Públicas	✓	✓
El Estado garantiza el acceso a la Justicia ambiental	X	✓
Acceso responsable a la Naturaleza	✓	✓
El Estado promoverá los mercados locales, ferias libres y circuitos cortos de comercialización	X	✓
El estado reconoce la identidad como una expresión territorial	X	✓
El estado reconoce la identidad como una expresión territorial	X	✓

支持派の草案改正点一覧

9月の国民投票において否認票が多数を占めた場合でも、ボリッチ政権は、財政改革、年金、健康保険制度、住宅政策、環境重視の開発計画、人権や先住民の権利などに関する実質的な法整備を展開し、社会改革を推進していく必要があるだろう。

出典：<https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-62010439>

編集後記

6月末、レコムの年次総会は、2年ぶりに対面形式で、京都で開催された。十数名が参加した交流会の場では、創設30周年を記念する事業とならんで、レコムの「終活」のことも話題になった。

パンデミック下で、中南米から活動家のスピーキング・ツアーもなくなり、グアテマラやニカラグアに関する支援活動の継続も難しくなっている。新規メンバーの参加もほとんどない。年4回の「そんりさ」刊行という広報活動だけでも継続していくのか。このようなことが、話題に上った。

私が属しているもう一つの NGO(?)「メキシコ先住民運動連帯関西グループ」などの場合は、いつ消えたかのか不明でも、それほど大きな問題ではない。しかし、レコムの場合は、大半の物的資産の断捨離はできているとはいえ、それなりの資産が一定残っているの、ドロンと消えるわけにはいかないのは確かであろう。

小林 致広

次回の「そんりさ」印刷作業は東京で、2022年10月15日(土)

発送作業は関西で、2022年10月22日(土)の予定です。

参加いただける方は、recom@jca.apc.org まで連絡ください。

Vol. 180 ハイチ共和国はどんな国？	Vol. 176 メキシコ・オアハカ州地峡部の 自律的女性議会
Vol. 179 ニカラグア大統領選挙現地報告	Vol. 175 『裏切者』が米墨政府の汚職と 麻薬カルテルの内実を暴く
Vol. 178 エクアドル大統領選挙と未来の行方	
Vol. 177 コロンビア 混乱の背景	

メーリングリスト

レコムに入会(もしくは購読)すると、メーリングリストにも無料で参加できます。
入会したら、メールアドレス、自己紹介メールを添え、recom@jca.apc.org まで、ご一報ください。
メーリングリストに登録します。レコムの活動は会員のみなさんによって支えられています。

会員の種類

- ☆会員：年 8,000円 …会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
- ☆学生会員：年 5,000円 …会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
- ☆賛助会員：年 10,000円(一口) 総会参加、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
- ☆購読会員：年 4,000円 …『そんりさ』の購読、メーリングリスト参加可

レコム連絡先(住所が変わりました) 〒678-0001 兵庫県相生市山手2-502-1 大西方 お問い合わせは、郵便、もしくはE-MAIL をお願いします。 ホームページ： http://www.jca.apc.org/recom E-mail： recom@jca.apc.org Facebook： https://www.facebook.com/recomsonrisa/	郵便振替口座 ：00110-7-567396 日本ラテンアメリカ協カネットワーク レコム口座 44万0484円 グアテマラ基金口座 174万8573円 (2022年7月現在) そんりさ(SONRISA) 181号 2022年7月24日発行 日本ラテンアメリカ協カネットワーク(RECOM) 定価 400円
---	--